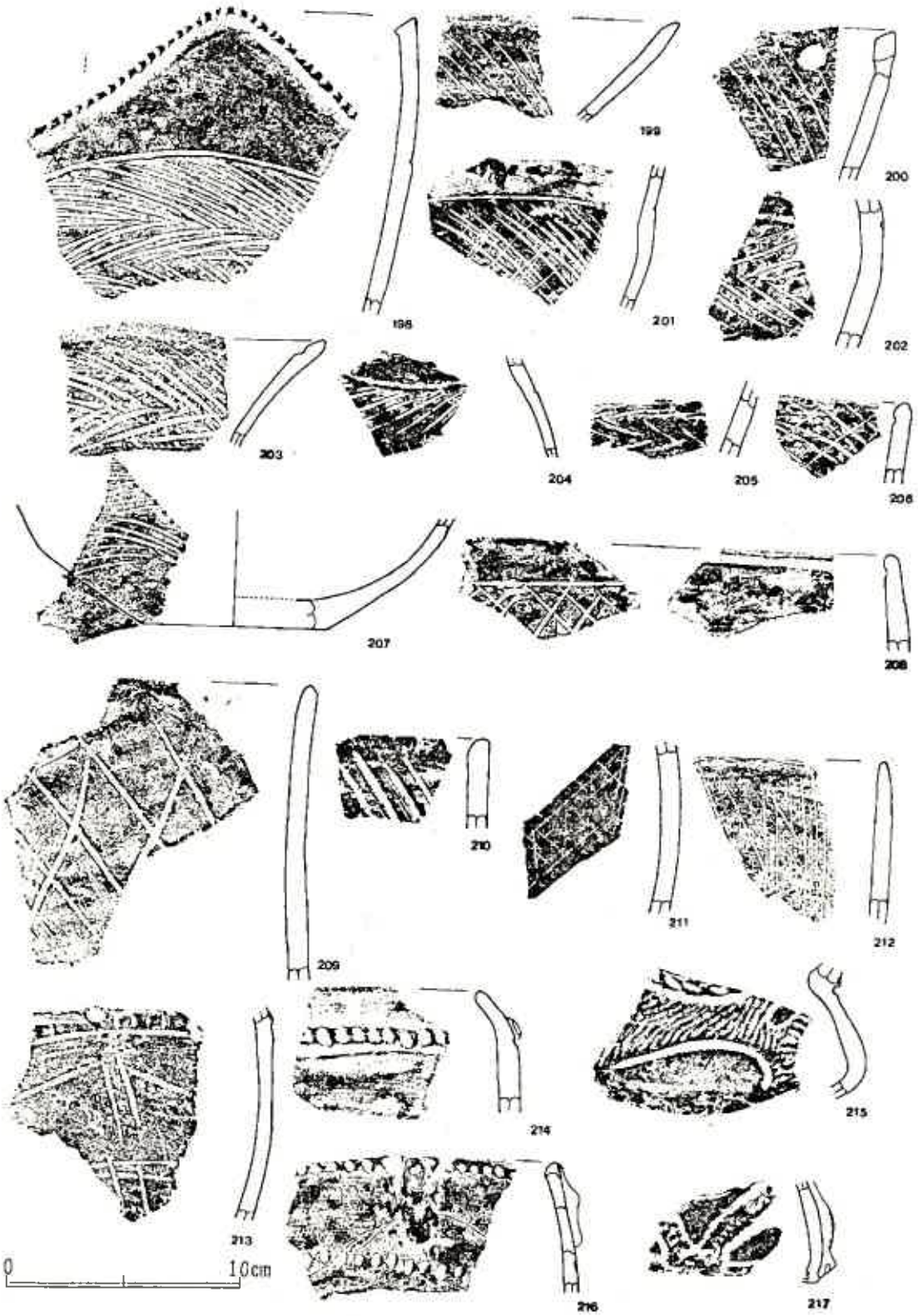
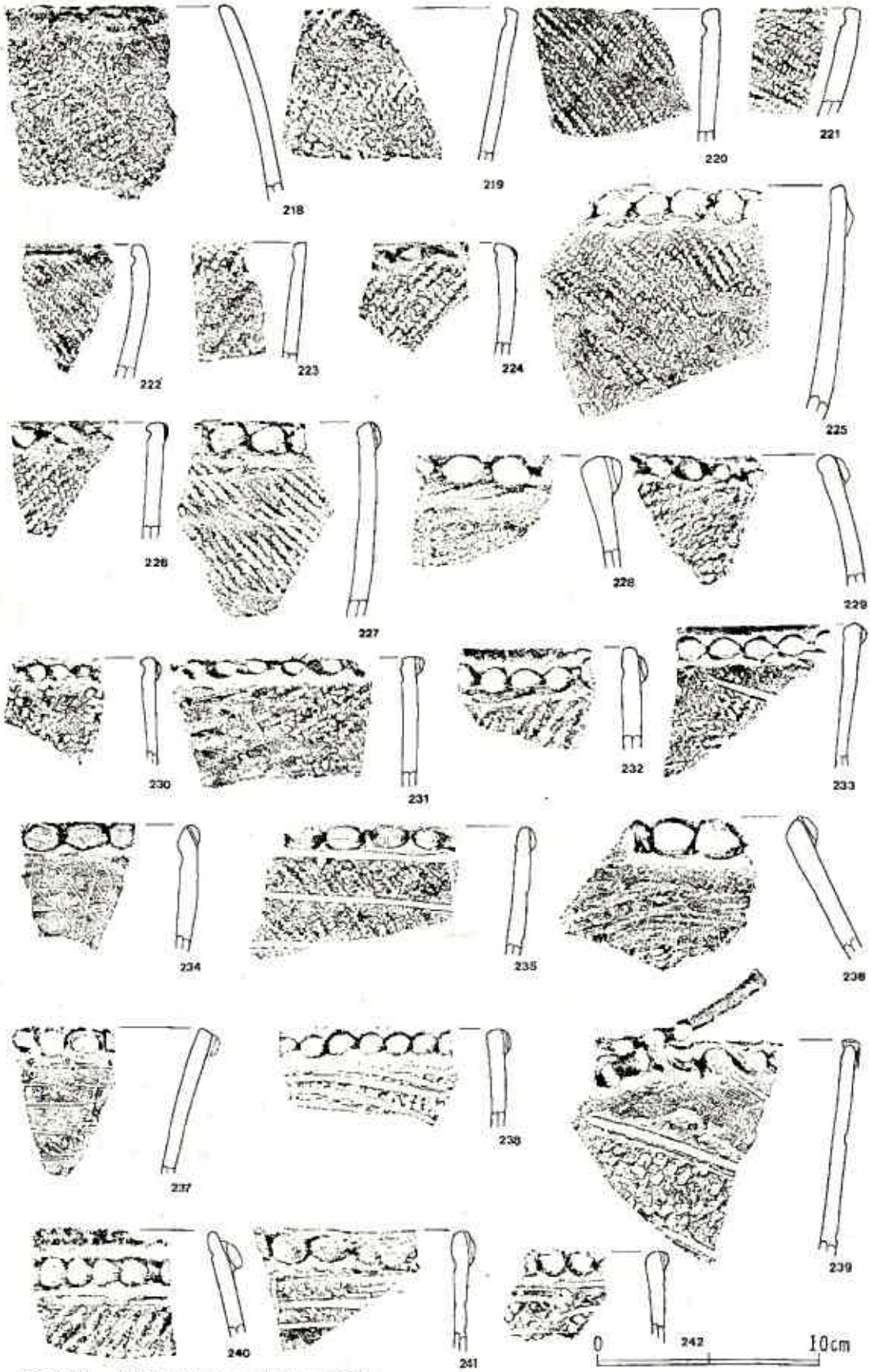
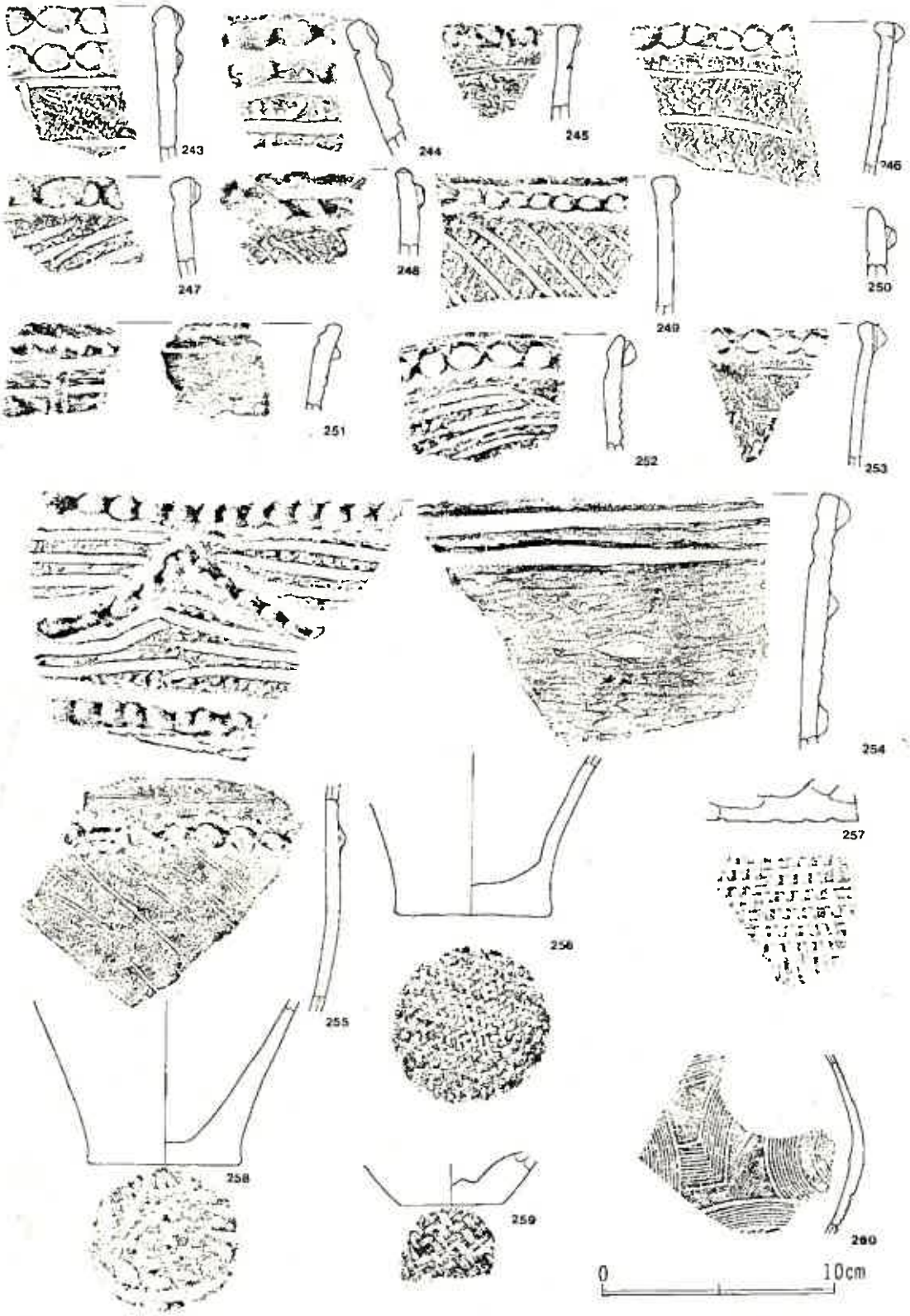


第22図　包含層出土土器拓影図(11)



第23図　包含層出土土器拓影図(2)



第24図　包含層出土土器拓影図(03)

第25図　包含層出土土器拓影図(4)

するものもみられる。261～277は平縁の深鉢形土器である。口縁下には縦長の瘤が付されたり、口唇上には突起が付されるものがある。279～281・286などはゆるい波状口縁の深鉢形土器である。波頂部から縦長の瘤が付されたり、穿孔されるものなどがみられる。第37図10は口径17.8cmをしており三段に縄文が施文され、円形の竹管文が加えられる。施文される縄文は原体ＲＬが大部分を占め、ＬＲは１片のみである。282～284は縄文にかわって貝殻腹縁文が施されている。287、288、第38図13は台付土器と思われ、沈線間に矢羽状の沈線が施される。第38図13は口径14.5cmを測り５列の隆起帯上に刻みが加えられる。

289、347は紐線文系土器である。いずれも深鉢形を呈し、口縁はわずかに肥厚し内側が稜の様になるものもあり、直立気味もしくは内傾気味となる。口縁直下には刺突文（289～291、293～297）、押し引き（292、298、301）、沈線のみ（299、300、302～304）、２本の沈線間の刺突（305）、沈線区画内に刺突文を入れるもの（306～343）などがみられる。刺突文は三角形となるものが大部分を占めるが、縦長となるものもみられる。器面にみられる条線は縦方向、やや斜めに施されるものが多い。345は矢羽状となる。第38図17は口径24.5cmを測り、口縁と胴部に三角形の刻みが付され、器面には縦方向の条線を施す。344は地文に原体ＲＬの縄文が施文されている。346、347は同一個体であり刺突文のかわりに貝殻腹縁文が施される。条線は格子状となっている。

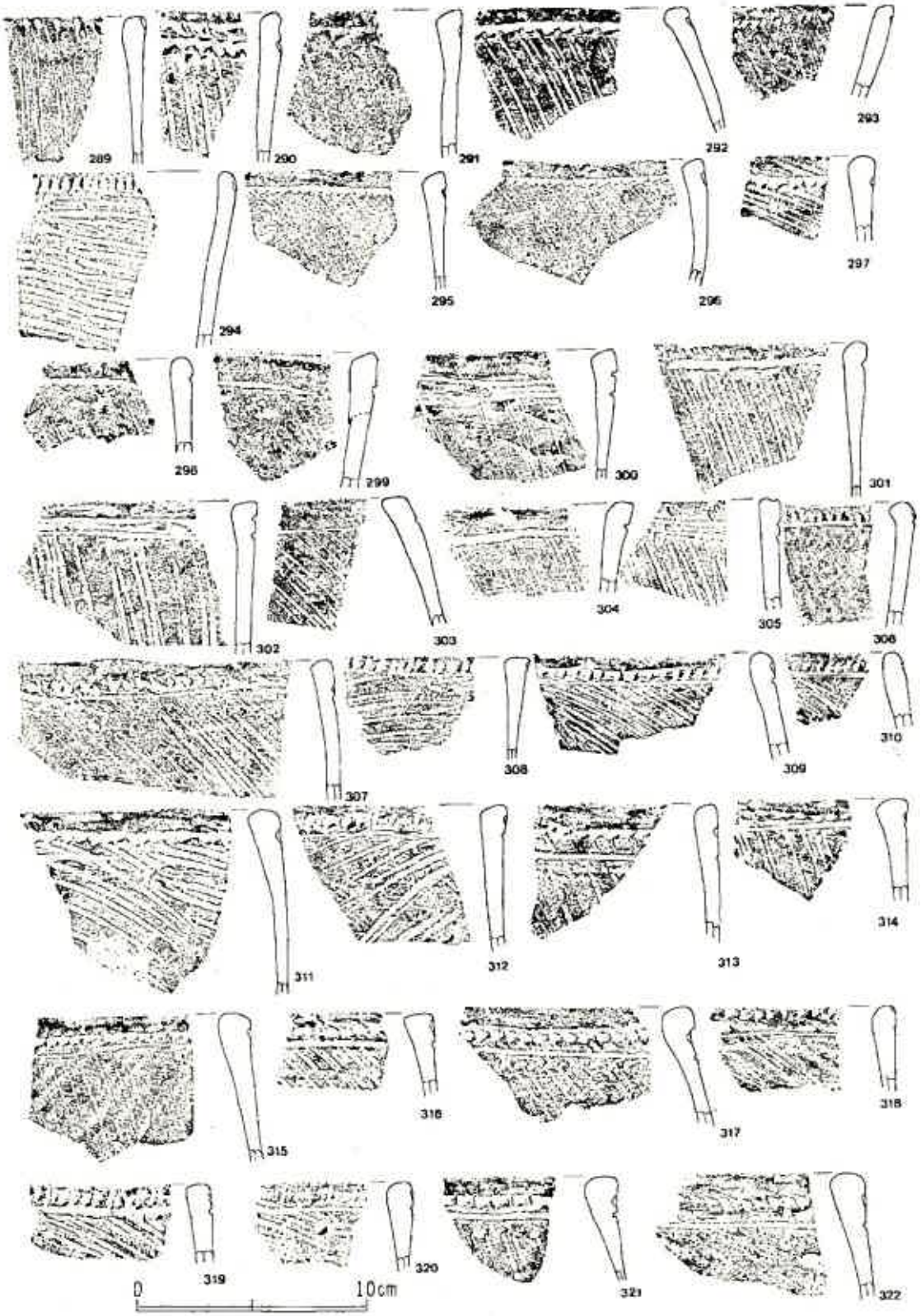
第８類土器（348～438、第37図18）

本類は安行Ⅱ式土器と思われるものである。348～368は帯縄文系の土器であり、口縁は肥厚し丸味をもち、内傾気味となる。348～357は平縁の深鉢形土器である。口唇上から口縁下に刻みをもつ縦長の痕が付されたり、双指押瘤が付される。口縁下に数条めぐらされる隆起帯上には刻みが加えられるものが多い。第37図18は口径24cmを測り、４単位の波状となる。隆起帯上にＬＲの縄文がみられる。15は胴部であり、隆起帯上には刻みが加えられる。358～360は浅鉢形を、362は台付形土器となるものであろうか。365は浅鉢形土器で口縁部に縦に２本の刻みをもつ瘤が付され、沈線による区画内には横方向の沈線が充塡される。361、363、364、366、367は波状口縁の深鉢形土器で、平縁のもの同様刻みのある瘤、双指押瘤が付される。口縁下に数条めぐら

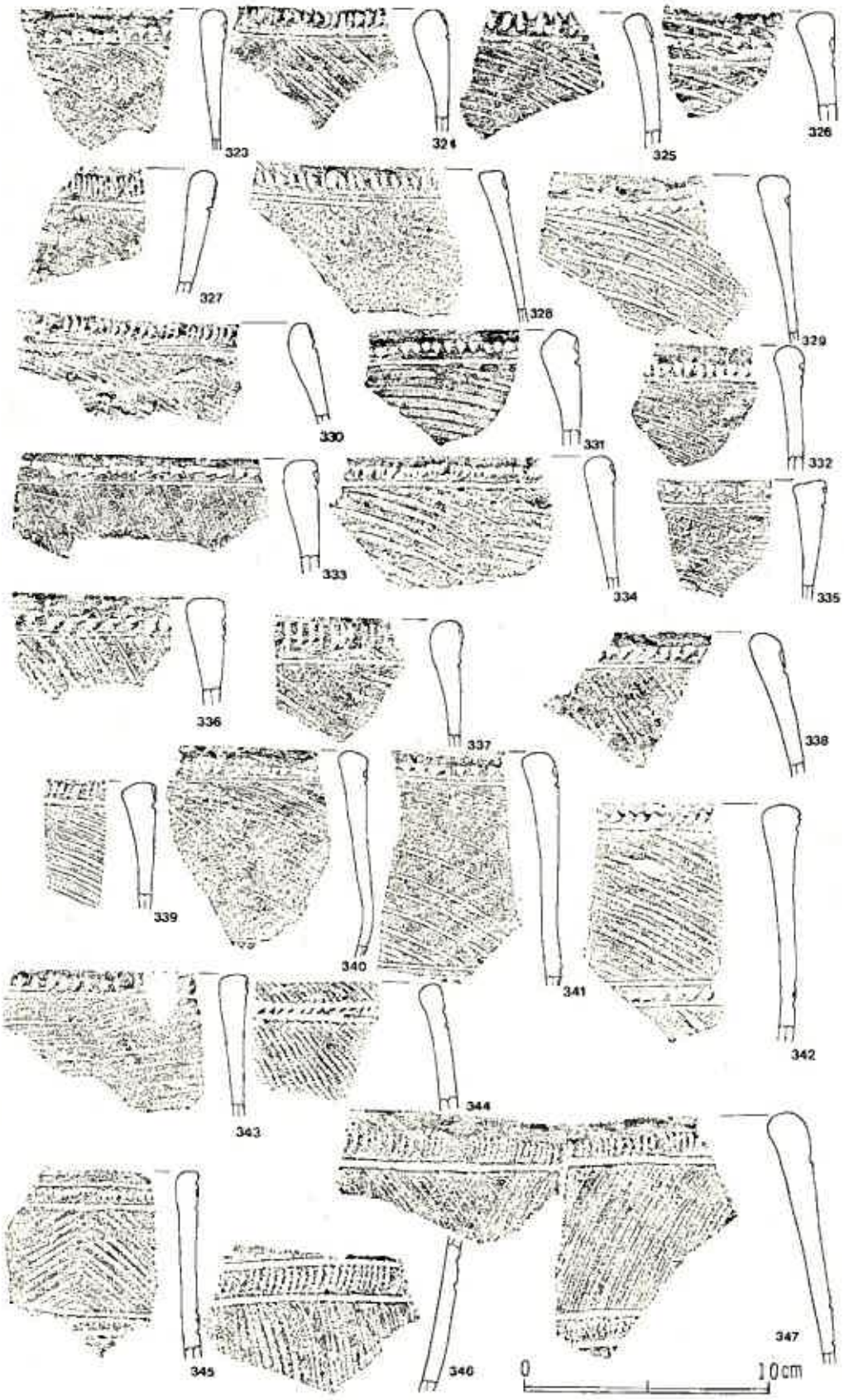
された隆超帯上は縄文、刻みの両者がみられる。367は、口縁下の２本の隆帯間に矢羽状の沈線を入れ、３ケ所の双指押瘤間を２本の沈線でつないでいる。368は注口土器である。これらに施文される縄文は原体ＲＬのものが多く、ＬＲのものはわずかである。369～422は紐線文系の土器である。いずれも深鉢形土器であり、口縁は肥厚し丸味をもち、内傾する。369～398、第37図11は口縁下、胴部に粘土紐を貼付しその上に刻みが加えられるものである。第37図11は、口径19.5㎝を測る。粘土紐による区画内には２～３本の沈線を直線的（369、371～377）、曲線的（378～385）に施すもの、粘土紐を垂下させるもの（370）、垂下させ蛇行沈線を加えるもの（391、395）などがみられる。399～415は刺突文が加えられるもので、区画内には粘土紐を貼付し、同様に沈線が施される。また２本の沈線間に刺突を加えるものもみられる。416～422は口縁以下胴部に縄文を施すもので、420には縦に沈線を施文し沈線間に縄文が施される。421、422には横方向の沈線がみられる。施文される縄文はＬＲとＲＬがみられる。器面にみられる条線は横方向に近くなり、一部は磨消されるものがある。424～434は刺突文が加えられるものである。424、425は波状口縁の深鉢形土器で波頂下には刻みをもつ瘤がみられる。427～433は同一個体とみられ、横に区画された沈線内に三角形の刻みを入れる。文様帯下端には２つの丸い貼付文がみられる。423は東北地方の後期後半の土器と思われる。入組文と横方向からの刺突によって生じた２つの瘤がみられる。435は台付土器の台部、436～438は底部の破片である。438の底部に網代痕が残されるが、磨消されており判然としない。

第９類土器（439～466、496、497）

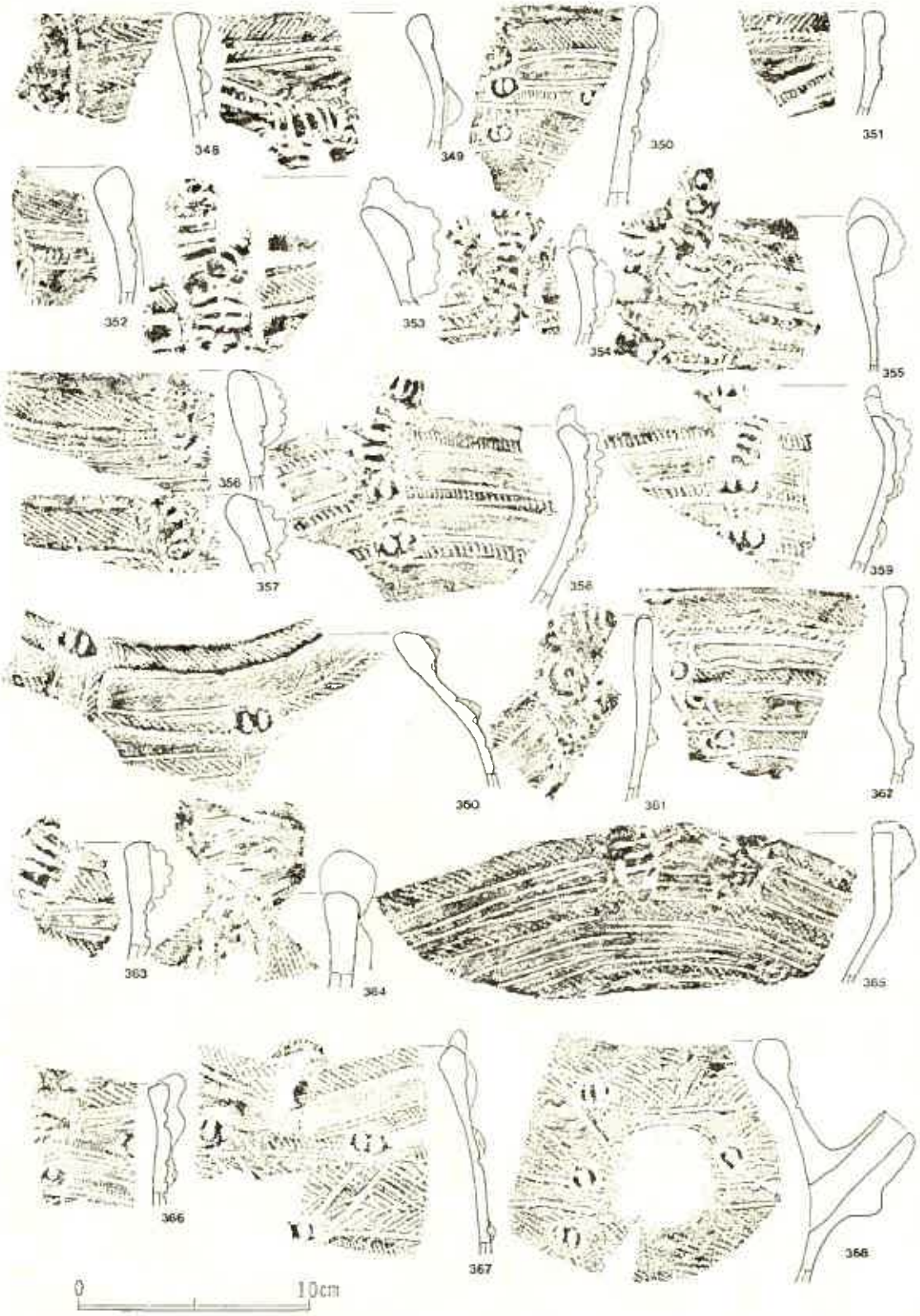
本類は安行Ⅲａ式土器と思われるものである。439～457は帯縄文系の土器であり、口縁はほとんど肥厚せず、直立気味となり、一部に内傾気味のものがみられる。439～451は平縁の深鉢形土器で口唇上には刻みある瘤、口縁下には貼付文がみられる。文様は弧線文を横方向に連結し磨消文様をもつもの、入組文による文様をもつもの、三叉文を配するものなどがみられる。第37図14は口唇上、口縁下に刻みをもつ瘤が貼付され、蛇行沈線が垂下される。区画内は磨消され縦走する沈線が施される。12は口径23㎝を測り、胴部で一度くびれ下半で張る器形を示す。縄文間に蛇行沈線を垂下させ、その間に２本の沈線により「く」状に文様を描く。胴部以下には条線が施される。



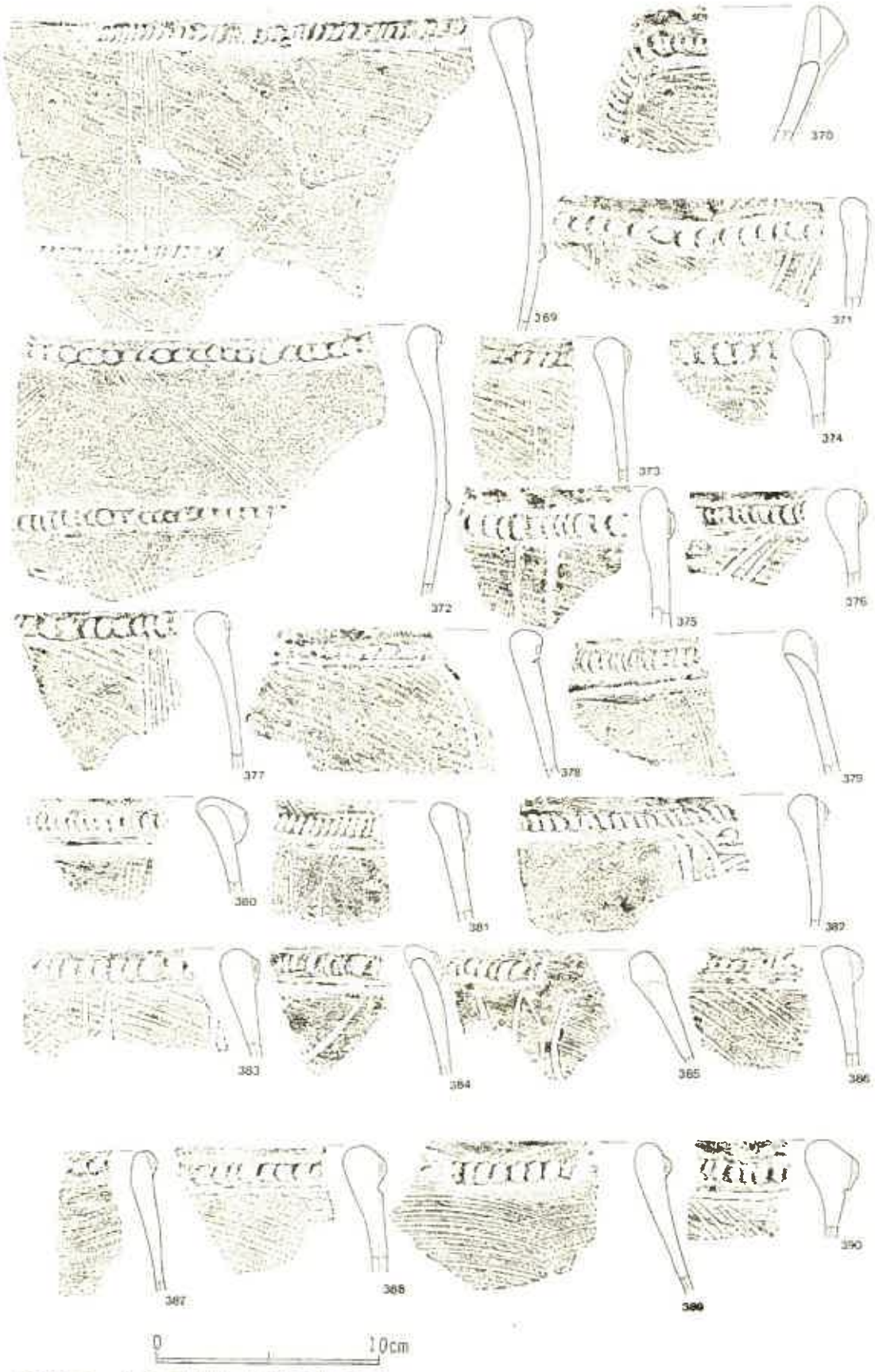
第26図　包含層出土土器拓影図(15)



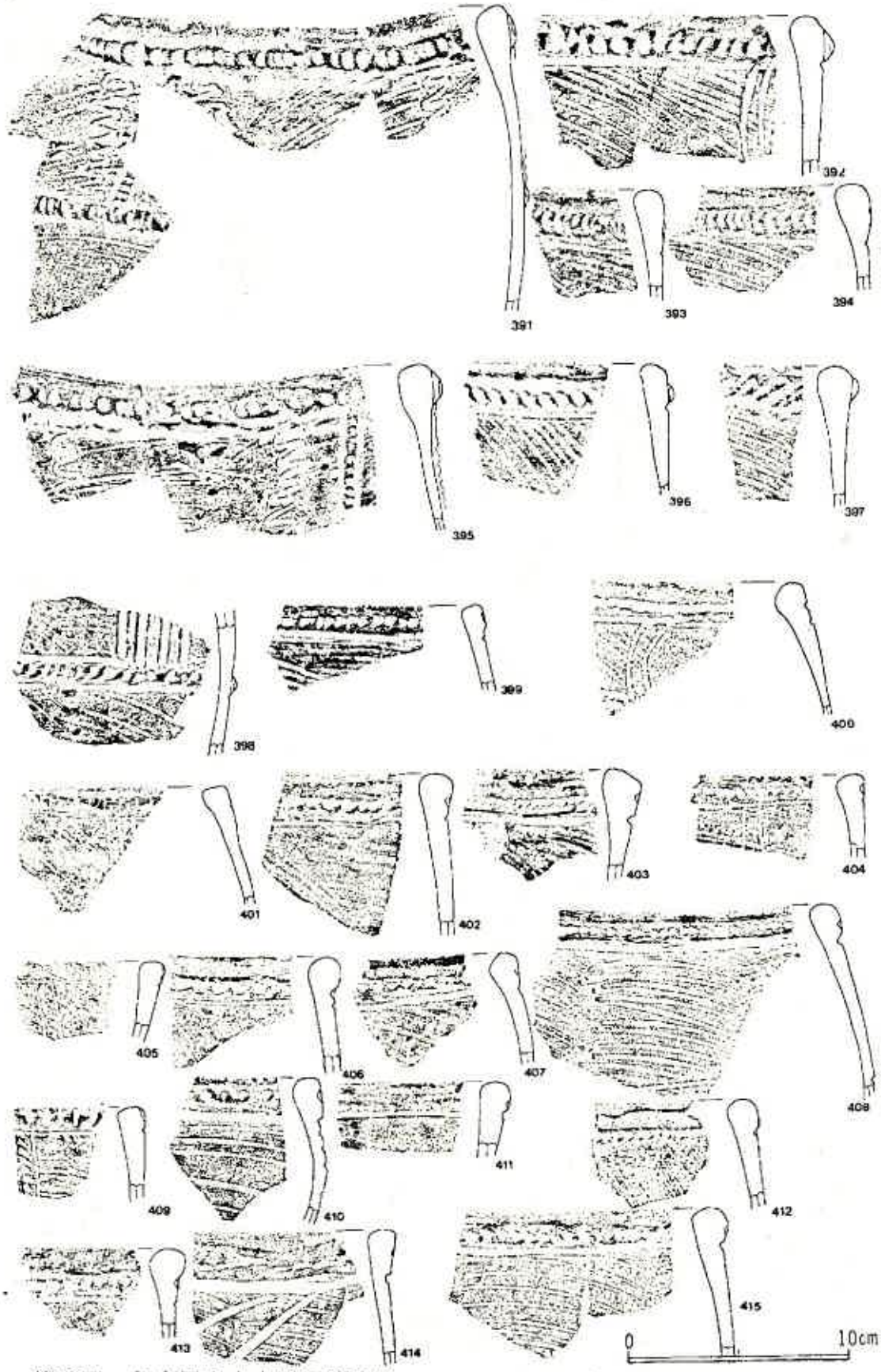
第27図　包含層出土土器拓影図(8)



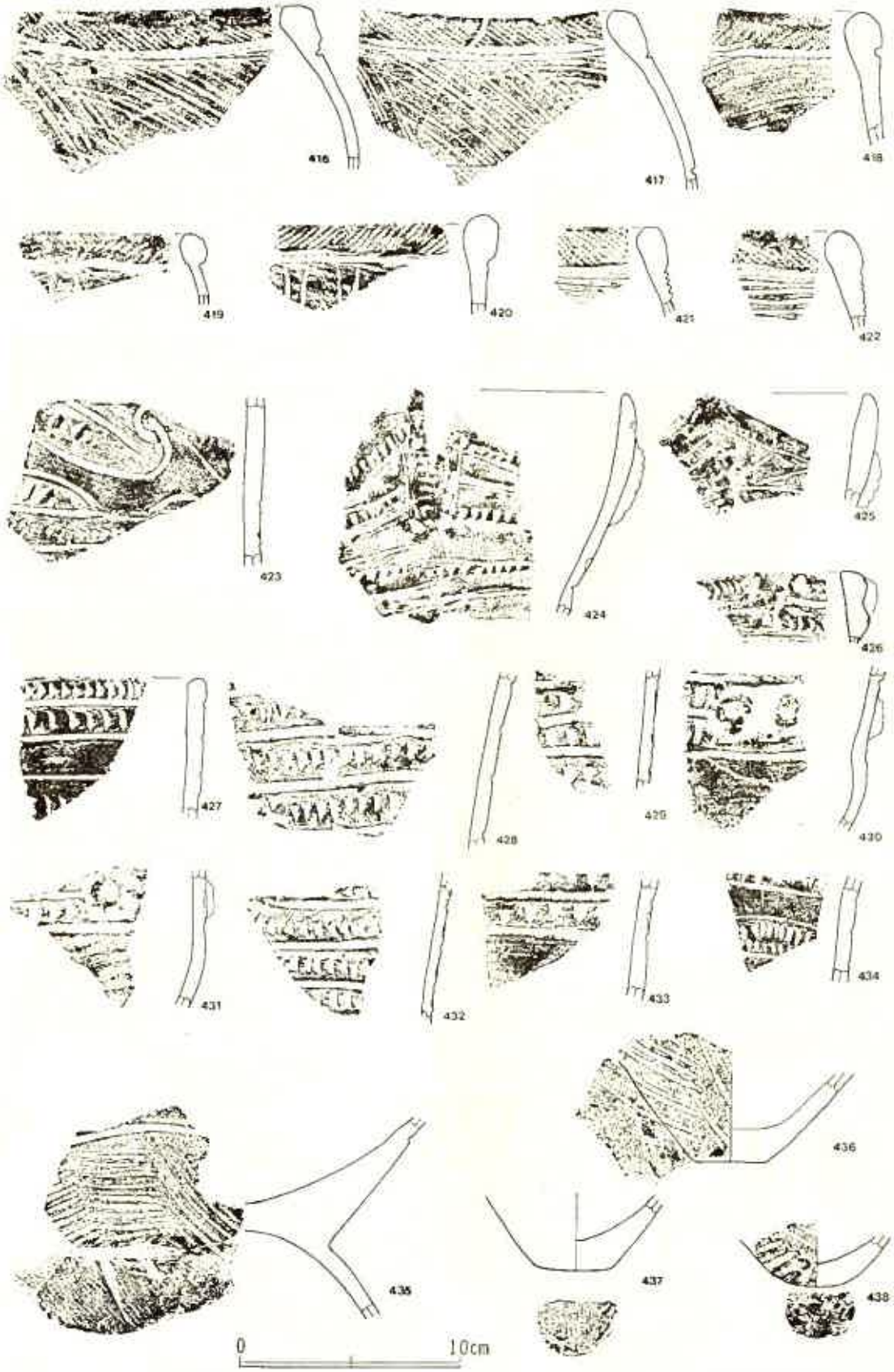
第28図　包含層出土土器拓影図(7)



第29図　包含層出土土器拓影図(18)

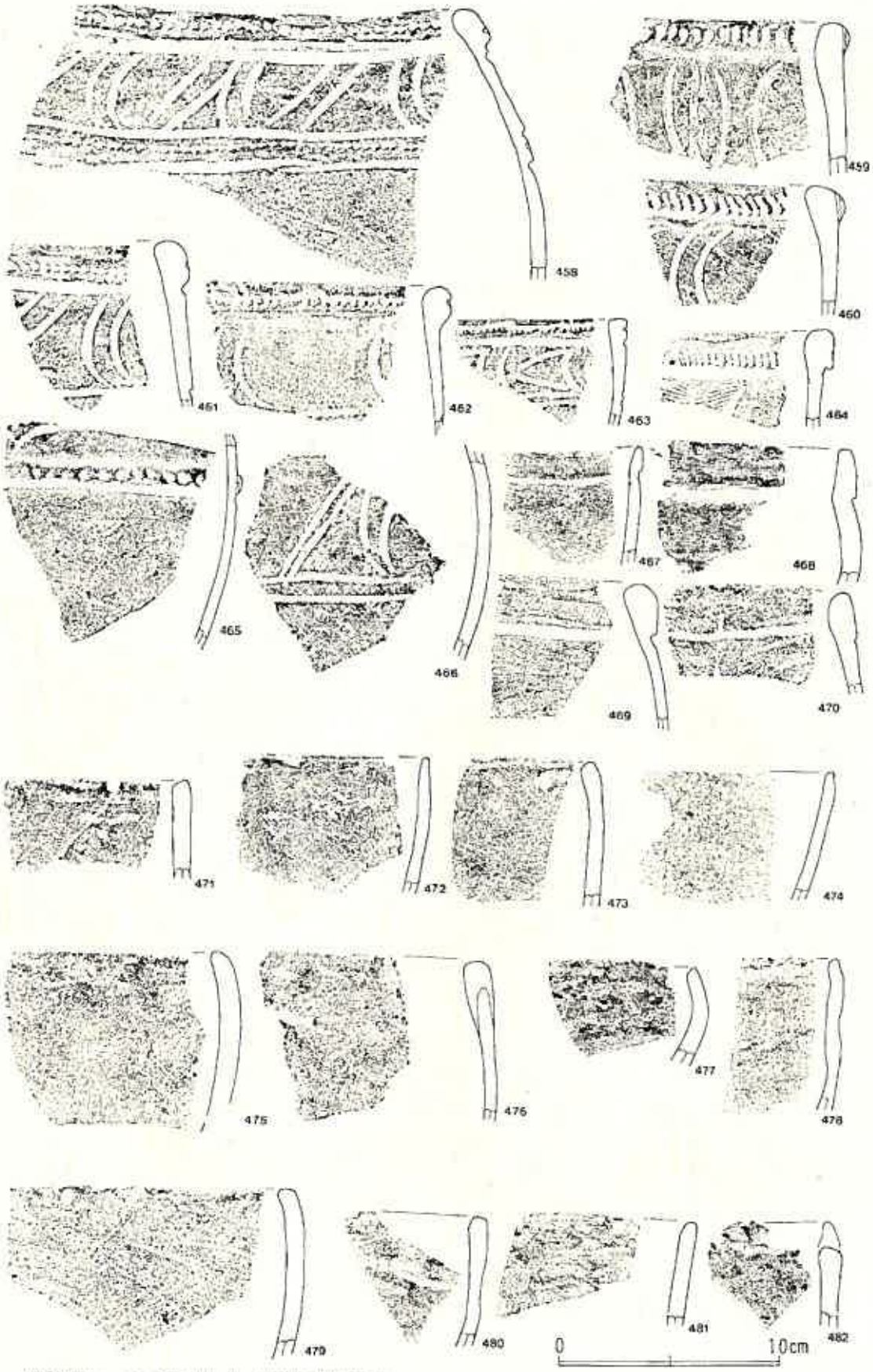


第30図　包含層出土土器拓影図(19)



第31図　包含層出土土器拓影図⑳

第32図　包含層出土土器拓影図20



第33図　包含層出土土器拓影図(22)